Panasonic

保管用

ワイヤリングフロア
LS3000/LS5000

施工説明書
取扱説明書

●お買い上げありがとうございました。
●施工前にこの施工説明書を必ずお読みの上、正しく施工してください。
●この施工説明書・取扱説明書は必ず保管してください。

パナソニック株式会社

安全に関するご注意

施工前に必ずお読みください。

フルワイヤリングフロアシステムの安全に関するご注意

⚠ 警告

禁止	●通電状態で結線作業を行わないでください ～感電の原因となります～

⚠ 注意

禁止	●吸着器（サッカー）でパネルを吸着したまま持ちはこばないでください ～落下してケガをする原因となります～	必ず守る	●結線は確実に行ってください ～発熱による火災の原因となります～
禁止	●配線器具類は事務所の出入口および通路部に取り付けないでください ～人のつまずき・破損の原因となります～	必ず守る	●有機溶剤を含んだ接着剤などを使用する場合は、有機溶剤作業責任者の立会いのもとで作業してください また、換気に十分心がけてください ～火災・呼吸器障害などの原因となります～
必ず守る	●フロアパネルを取り扱う時は、保護具を着用してください ～パネルにはさまれるなどケガをする原因となります～	必ず守る	●接地工事を行ってください ～守らないと、感電の原因となります～
必ず守る	●通線口が不要になった場合は、パネルを90°回転させて通線口を半丸型に戻してください。 ※現場状況により、半円型に戻せない場合は、ワイヤリングフロア通線口塞ぎプレート（NE88420）で、塞いでください。 ～ハイヒールが落ち込み、ケガをする原因となります。～		

安全に関するご注意（つづき）

施工・ご使用前に必ずお読みください。

施工上のご注意

●施工説明書に従い正しく施工してください
～施工に不備があると、がたつき・変形・破損の原因となります～

●下地は湿気のない平坦かつ堅牢なものとし、適切な施工環境を維持してください
ワックス、グリス、油等は完全に除去してください
～支柱の接着不良などの原因となります～

●重量物を搬送する場合は、パネル上に合板（厚さ16mm以上）などを敷いて行ってください
～変形・破損の原因となります～

●タイルカーペットの敷設はずらし貼りをしてください
～1：1貼りの場合、段差やカーペットの目地が目立つことがあります～

●配線器具の施工には、電気工事士の資格が必要です

●フロア内の配線工事は、内線規定451節「フリーアクセスフロア内のケーブル配線」に従い施工してください

●配線器具類は、パネルにしっかりと固定してください
～ケーブルの抜け・損傷の原因となります～

使用上のご注意

●歩行時に異常を感じた場合は、早めに担当の施工業者様あるいは当社にお問い合わせください

●耐荷重性能を超える用途で使用しないでください

●局部的または長期的に重いものをのせる場合は、合板などによる荷重の分散、あるいは補強支柱などによるパネルの補強対策をしてください
～変形・破損の原因となります～

●重いものを落としたり、飛び降りたりしないでください
～変形・破損の原因となります～

●廊下、出入口等の人の往来が激しい場所では、補強対策をしてください
～変形・破損の原因となります～

●床下と床上空間に気圧差が生じた場合、タイルカーペットに汚れが発生することがあります（フィルター現象）
その場合は、グレーチングパネル（特注）等を設置し、空気抜きを行ってください

●配線器具類は台車等でぶつけるあるいは蹴るなど強い衝撃を与えないでください
～変形・破損の原因となります～

●適合するプラグを使用してください
～変形・破損の原因となります～

●タイルカーペットは定期的にメンテナンスを行ってください
～汚れのこびりつきの原因となります～

●よごれなどをふき取る場合は、中性洗剤を使用してください
～変色・しみの原因となります～

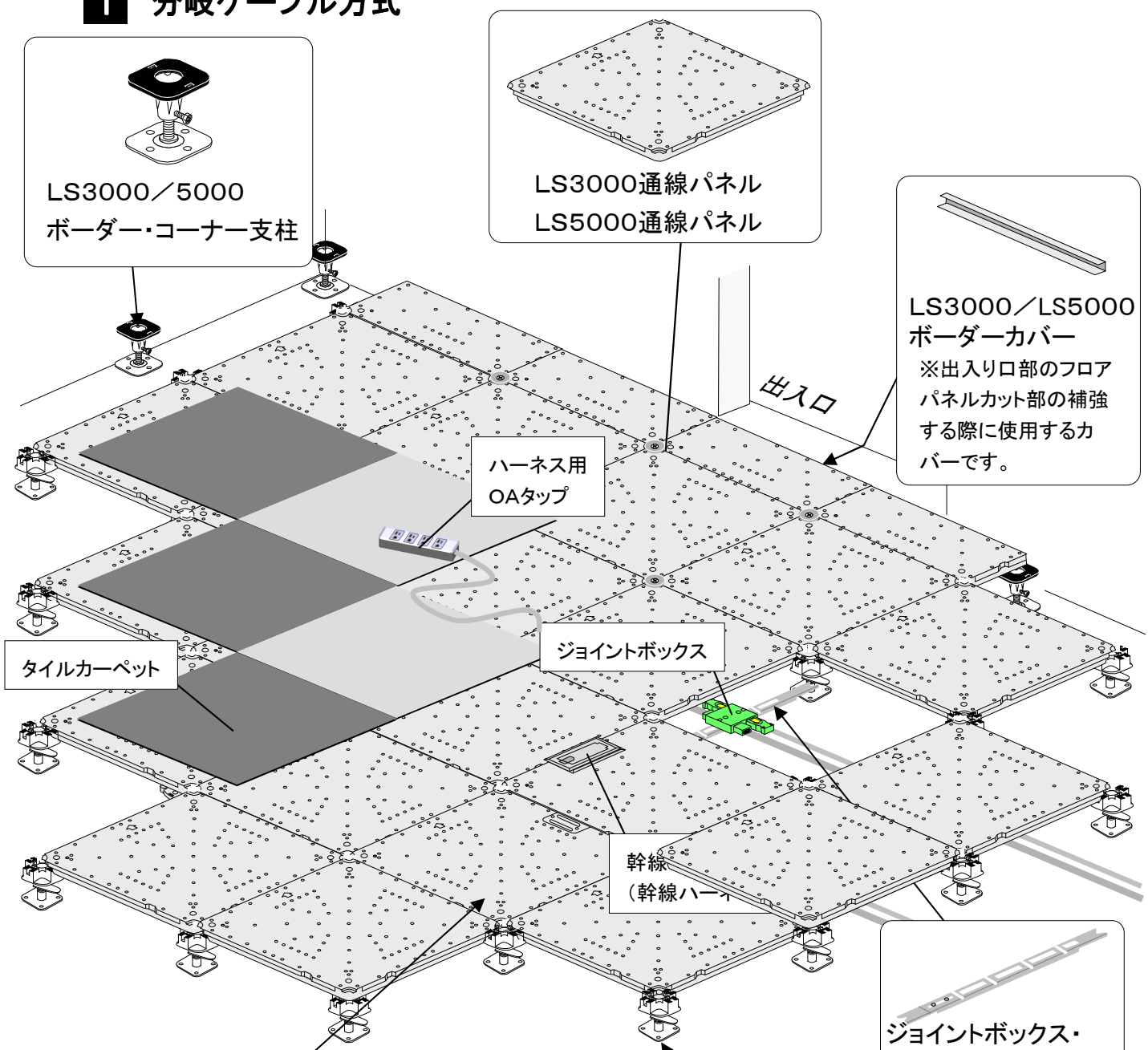
目次

安全に関するご注意 2
目次 4
システム構成 5
1 分岐ケーブル方式 5
2 幹線ケーブル方式 6
施工図の作成 7
1 平面計画図に基づく施工図の作成 7
施工前の準備 8
1 床面下地の仕上がり状態チェック 8
2 施工図の確認及び基準線の設定 8
3 施工部材の確認と必要工具の準備 8
4 清掃 8
5 保管・配送 8
施工に必要な工具 9
1 フロア施工用 9
2 清掃具 9
3 タイルカーペット施工用工具 9
4 その他 9
施工に必要な部材 10
1 フロア部材 10
2 ボーダー(壁際)部材 10
3 表面仕上げ部材 10
4 その他部材 10
施工手順 11
1 墨だし 11
2 材料搬入・仮置き 11
3 支柱のレベル出し 12
4 支柱の接着 13
5 フロアパネルの敷設 14
6 ﾌﾛｱﾊﾟﾈﾙの固定(ｺｰﾅｰﾛｯｸ) 16
7 ボーダー部用フロアパネルの切断加工 17
8 ボーダー部フロアパネルの敷設 18
9 壁面収納棚を設置する場合の施工 19
10 スロープ・かまちの施工例 20
11 タイルカーペットの敷設 21
12 配線工事 23
13 ﾊｰﾈｽｼﾞｮｲﾝﾄｲﾎﾞｯｸｽの取付 24
14 ハーネス用OAタップのフロア上への取り出し 24
15 各種ワイヤリング機器の取付 27
施工自主検査基準書／成績書 28
お問い合わせ 29

システム構成

ワイヤリングフロア　LS3000／LS5000のシステム構成は下記の通りです。

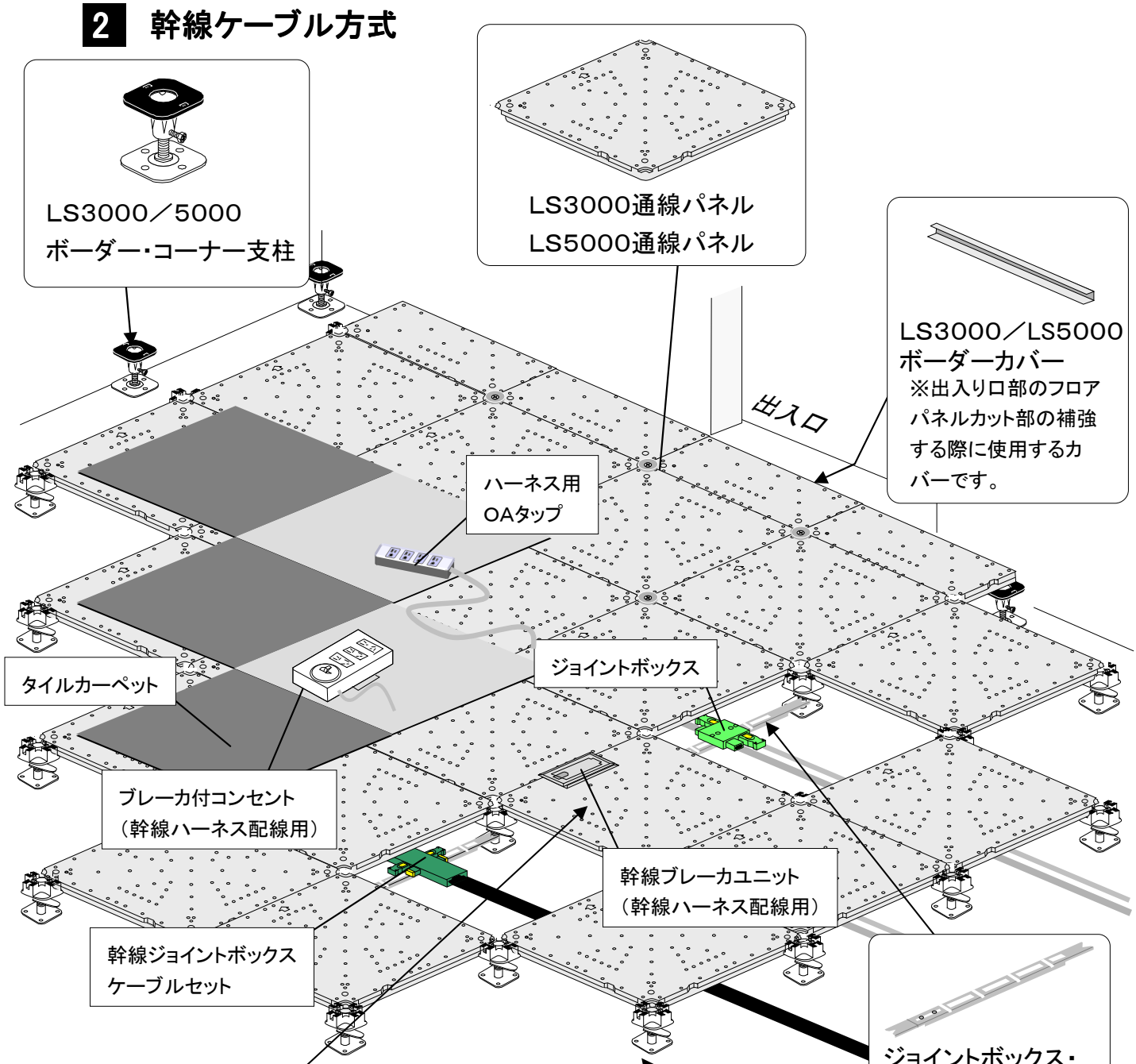
1　分岐ケーブル方式

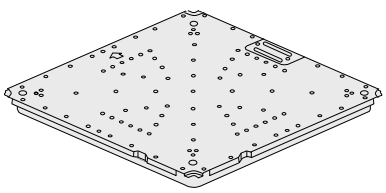


システム構成

ワイヤリングフロア　LS3000／LS5000のシステム構成は下記の通りです。

2　幹線ケーブル方式



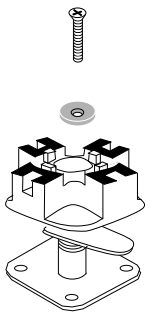


LS3000コンセント設備パネル
LS5000コンセント設備パネル

※当社製アウトレットを取り付ける場合にご使用いただくパネルです。付属のカバーを取り外すとインナーコンセントミニシングル、ミニダブルなどの各種コンセントの取付が可能です。

半円キャップ

浮き防止プレート



LS3000／5000パネル支柱
（連結ロック付）

施工図の作成

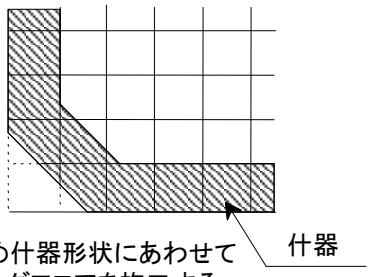
1 平面計画図に基づく施工図の作成

① 事前打合せ

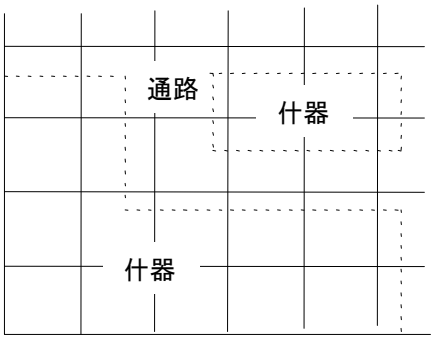
ケーブルの立ち上がり位置（分電盤等の位置）、什器の位置、床用アウトレットの位置等を、お施主様と事前に打合せ・確認をしておいて下さい。確認が不足すると施工後、修正が発生し、費用アップの原因となります。

①ケーブルの立ち上がり部（分電盤等）の位置は、ケーブルが集中する為、入線量を確認してください。

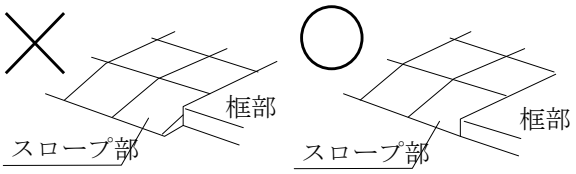
② ワイヤリングフロアの施工範囲は、什器形状（特にカウンター、間仕切り等）に合わせて決めて下さい。また、ワイヤリングフロアの上に乗せるか側面に接するかにもご注意下さい。



③ 床用アウトレットの位置は什器の位置や通路の位置等を考慮して決定してください。



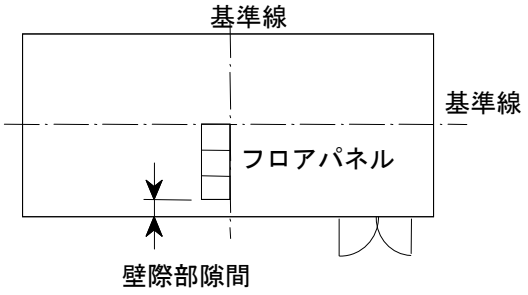
④ スロープは歩行時につまづかないよう形状に仕上げてください。



② 基準線の設定

基準線は部屋の中央を原則としてください。ただし、壁の直線が確保されている場合は、壁を基準線にすることもできます。また部屋が小さい場合には、出入り口を基準線にすることもあります。

壁際部隙間が175mm以上になるように基準線を決めてください。



③ 平面計画図の確認

新築の場合は平面計画図にもとづき施工図を作成しますが、リニューアルの場合は、設置機器の位置・ケーブルの立ち上がり位置等を現場でチェック・寸法測定した後、施工図を作成してください。

施工前の準備

1 床面下地の仕上がり状態チェック

1 リニューアルの場合、ビニルタイルの除去が必要です。

2 床面下地の仕上がり状態をチェックし、突起物は除去してください。

3 床面下地の水平レベルをトランシット等で調べ床高低差が支柱の調整範囲内にあるかどうか確認します。調整範囲を越える場合は低い面をモルタル仕上げするなど修正が必要です。 各パネル支柱の調整範囲は次のとおりです。

支柱＼床仕上げ高さ(H)	50 mm	60 mm	70 mm	80 mm	90 mm	100 mm	110 mm	120 mm	130 mm	140 mm	150 mm
パネル支柱	+7 −5 mm	+10 −7 mm	+10 −7 mm	+19 −7 mm	+9 −17 mm	±12mm	+29 −9 mm	±19mm	+10 −30 mm	+20 −10 mm	+10 −20 mm
ボーダー支柱	+12 −3 mm	+12 −7 mm	±12mm	——	——	——	——	——	——	——	——
コーナー支柱	+4 −2 mm	±5mm	±7mm	——	——	——	——	——	——	——	——
ボーダー・コーナー支柱	——	——	——	±10mm	±12mm	±15mm	±15mm	±15mm	±15mm	±15mm	±15mm

尚、床の不陸の大きさによって支柱調整幅が小さくなる場合があります。
※床仕上高さは、表面仕上げ材（t＝6.5mm）を含む

4 調べた床高低差の中央値を基準高さとします。
取り付けられる配線機器の制約がありますので必ず確認してください。
選定の際、床の不陸分を考慮して支柱高さを選定してください。

2 施工図の確認及び基準線の設定

1 施工図と現場の実寸法が合致しているか確認します。

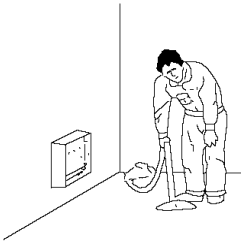
3 施工部材の確認と必要工具の準備

1 搬入された施工部材数量に不足がないか確認します。

2 施工に必要な工具類を準備します。（次ページ参照）

4 清掃

1 施工する前に床面を掃除機またはホウキ等で清掃してください。



5 保管・配送

1 保管・輸送する場合は、平積みしてください。斜め積み、縦積みするとパネルが変形する恐れがあります。

施工に必要な工具

施工に必要な工具は下記の通りです。

1 フロア施工用

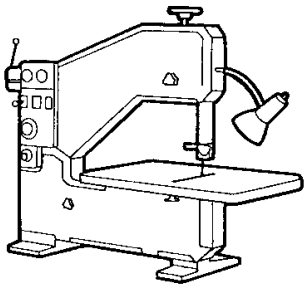
① サンダー ―――― 床面（下地）調整用

② 墨壷、巻尺、チョークなど ―――― 墨だし用

③ レベル棒・水糸など ―――― 支柱レベル出し用

④ フロアパネル切断機 ―――― 壁際部フロアパネル切断用
（コンターマシン・電動丸ノコなど）

～コンターマシン～

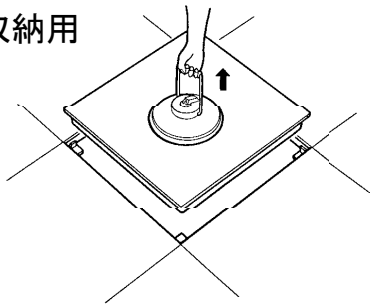


切断スピードはダイヤモンドカッターほど速くありませんが、水をかけなくてよいこと、粉塵の少ない等の特長があります。
切断刃は、コネチカット社製バイメタル
SKH 6mm幅×12山／インチをおすすめします。

⑤ 電動充電ドライバー ―――― ワイヤリング機器やその他部材の固定用

⑥ コンクリートドリル ―――― 見切縁などのアンカー固定用

⑦ サッカー ―――― 収納パネル取り出し収納用
（当社製【品番DJ28000】）



2 清掃具

① ホウキ・掃除機など

3 タイルカーペット施工用工具

① カッター ―――― タイルカーペット切断用

② ローラー ―――― 粘着剤塗付用

4 その他

① 一般工具（ドライバー、ニッパー等）

② 水準器

施工に必要な部材

施工に必要な部材は下記の通りです。ご調達・ご用意ください。

1 フロア部材

① タイプLS3000 フロアパネル（一式）
- ●タイプLS3000 通線パネル
- ●タイプLS3000 コンセント設備パネル（オプション）

② タイプLS5000 フロアパネル（一式）
- ●タイプLS5000 通線パネル
- ●タイプLS5000 コンセント設備パネル（オプション）

③ 支柱（一式）

※支柱は仕上げ高さにより品番が異なります
※仕上げ高さはタイルカーペット分を含みます

- ● LS3000/5000パネル支柱
- ● LS3000/5000ボーダー支柱
- ● LS3000/5000コーナー支柱
- ● LS3000/5000ボーダー・コーナー支柱
- ●支柱接着剤 〔タイルメント社製　FU－7 / トーヨーポリマー社製ルビロン302 / トーヨーポリマー社製ルビロン155　など〕

※選定にあたっては、接着剤メーカーにご確認ください。

④ その他
- ● 浮き防止プレート
- ● 半円キャップ

2 ボーダー（壁際）部材

① LS3000/LS5000ボーダーカバー（フロアパネルカット仕上げの場合）

② クッション材（フロアパネルカット仕上げの場合）

例）ネオプレンゴム（発砲倍率30～40、寸法25×5mm）、両面テープ付き

3 表面仕上げ部材

① タイルカーペット
- ●タイルカーペット（粘着剤なし）

または
- ●タイルカーペット（粘着剤付）

※タイルカーペットは色調により、品番が異なっています。

② タイルカーペット粘着剤

③ タイルカーペット粘着テープ

4 その他部材

① スロープ・かまちなどの部材一式

② 配線部材・アウトレットなどの部材一式

施工手順

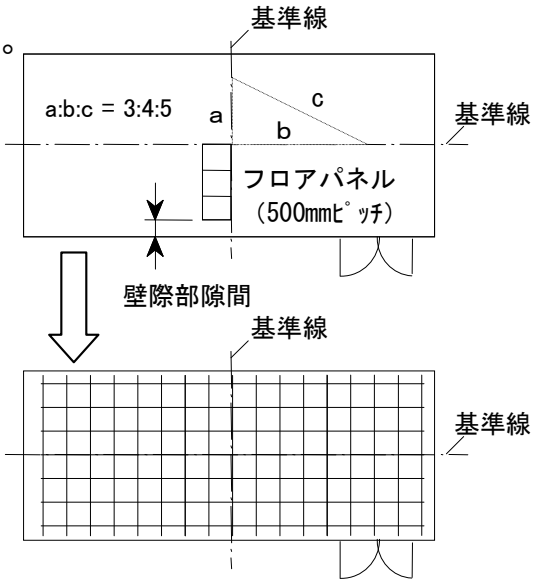
1 墨だし

基準線は部屋の中央を原則としてください。
（部屋が小さい場合には、出入り口を基準線にすることがあります
その場合も壁際の隙間が175mm以上になるように注意してください）

1 基準線より500mmピッチにて墨だしを行います。
（基準線の直角度は右図のようにa:b:c = 3:4:5となっているかにより容易にできます）

この際、壁際部隙間寸法（フロアパネルを敷設していった場合の壁際の余り部の寸法）をあらかじめ確認してください。

●壁際部隙間が175mm以上になるように、基準線を決めてください。



2 材料搬入・仮置き

1 フロアパネルなどの施工部材は施工面積に応じて分散します。
（分散することにより、作業がしやすくなります。）

注意！

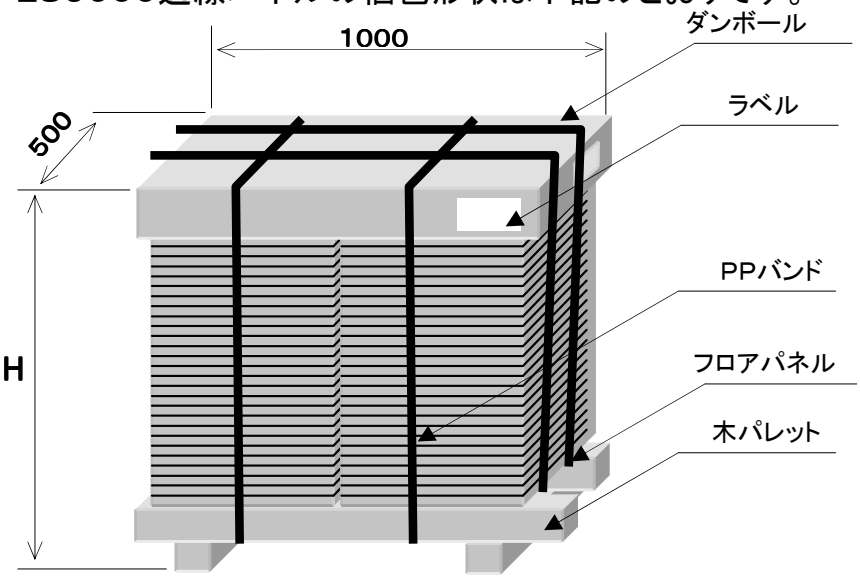
① 部材（フロアパネルなど）は投げないでください。
～破損の原因となります～

② 部材の仮置き位置は建物の梁の上に分散して置いてください。
～部材重量が床面強度を超え、建物に影響がある場合があります～

●LS3000通線パネル／ LS5000通線パネルの梱包形状は下記のとおりです。

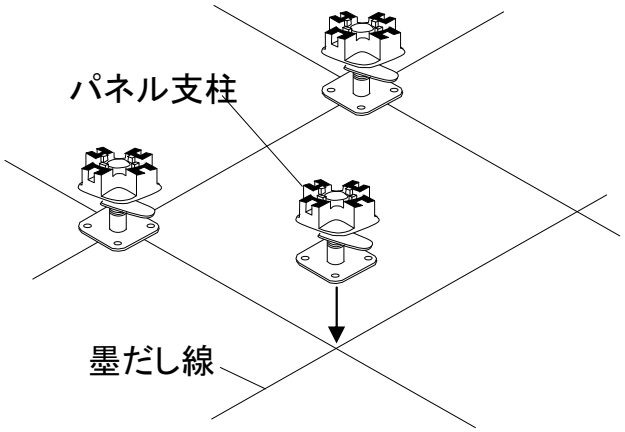
LS3000通線パネル
・入数： 70枚／パレット
・重量：約340kg／パレット
・大きさ：1000×500×H1020mm

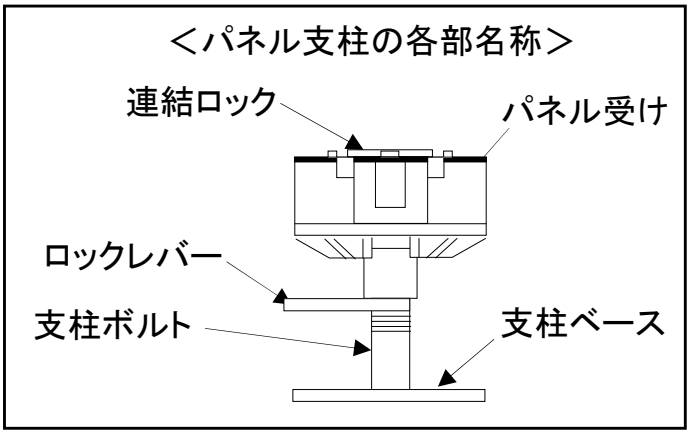
LS5000通線パネル
・入数： 60枚／パレット
・重量：約360kg／パレット
・大きさ：1000×500×H900mm



3 支柱のレベル出し

① パネル支柱を墨だし線に合わせ、配置していきます。

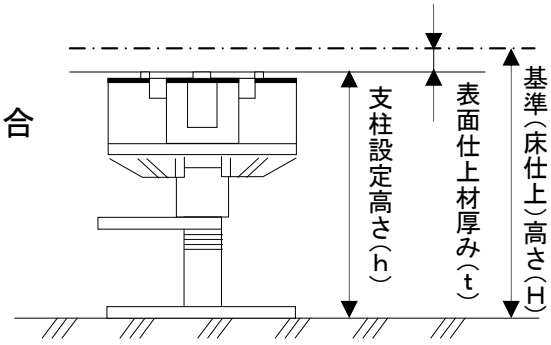




② 支柱設定高さに合わせ、支柱の高さを調整します。
支柱設定高さは床仕上がり高さから表面仕上げ材の厚み分を差し引いた寸法に合わせてください。

例） 基準（床仕上）高さ　H＝100mm
表面仕上材（タイルカーペット）　t＝6.5mmの場合

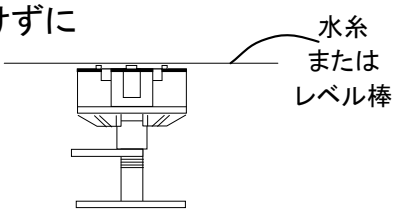
支柱設定高さ　h＝H－t＝100－6.5＝93.5mm

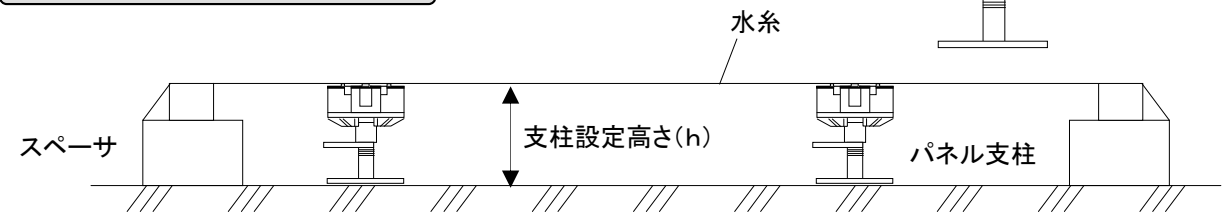


下記にレベル出し方法を例にあげます。
レベル出し方法はいくつかありますが、現場の状況をふまえ最もよい方法で施工してください。

A 水糸による方法

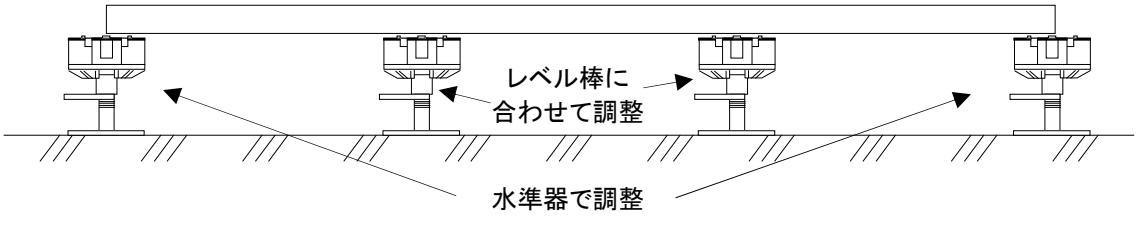
※連結ロックを付けずにパネル受け上面で合わせます。



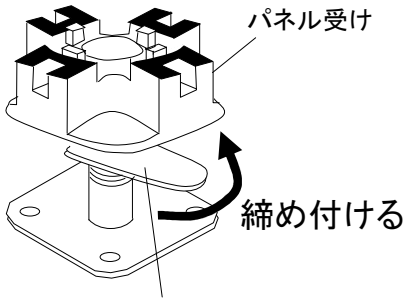


B レベル棒による方法

レベル棒を用意し、その両端に位置する支柱は水準器で調整しておき、その間の支柱はレベル棒に合わせて調整します。



③ パネル支柱高さ調整と固定方法
パネル受けを回して高さ調整を行い、高さ設定後、ロックレバーを手で締め付けます。



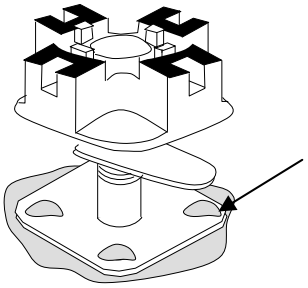
（例）H＝100mm

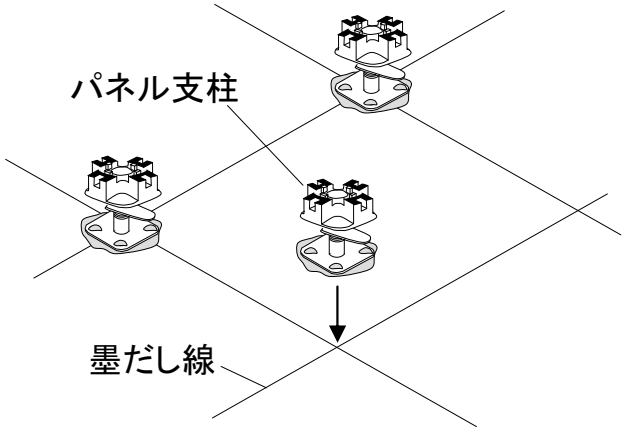
4 支柱の接着

支柱接着剤を支柱の裏面に塗布し墨だし線に合わせて支柱を床面に押し付けます。

塗布量は、支柱ベースの穴から接着材がはみ出す程度を目安とします。
（0.3～0.4g/c㎡ ）

支柱は一度に全数を接着しないでフロアパネルを敷き込む量に合わせて順次行います。





施工手順（つづき）

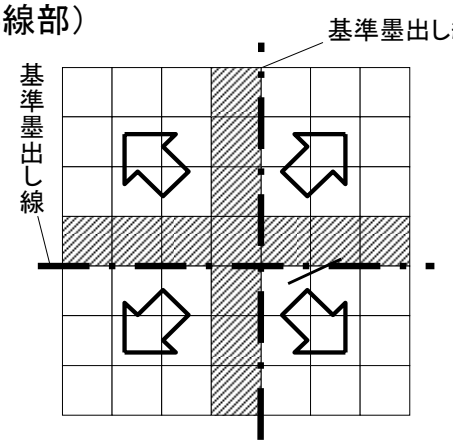
5 フロアパネルの敷設

高さ調整された支柱の上に、フロアパネルを順次敷設していきます。
敷設順序は次の通りとします。

① 基準墨出し線に沿って、基準パネルを敷設する（斜線部）
（まっすぐに敷設して下さい）

② 基準パネルに沿い、⇨ 方向に順次
敷設します。

パネル間のすきまは、詰め施工を行わずパネルの辺中央部で1mm程度を目安にし、2mmをこえないように施工して下さい。

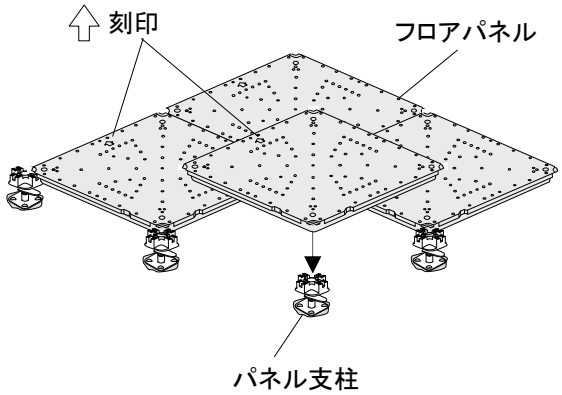


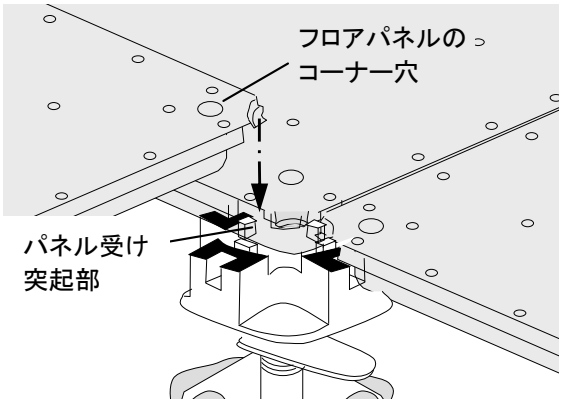
注意！

① フロアパネルの敷設は、支柱の接着剤が固まらない間に行ってください。
～接着剤が固まった後で敷設するとパネルが取付けできないことがあります～

フロアパネル敷設方法は次の通りとします。

③ パネル支柱のパネル受け突起部とフロアパネルのコーナー穴を合わせ、はめ込み敷設します。この時フロアパネルは、表面の 刻印⇧ の向きを一定方向にして、全てのフロアパネルを敷設してください。





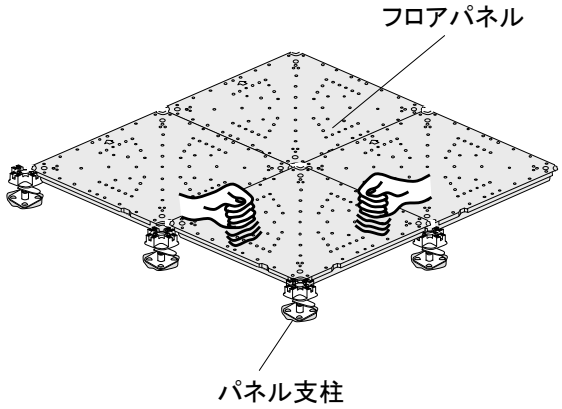
注意！

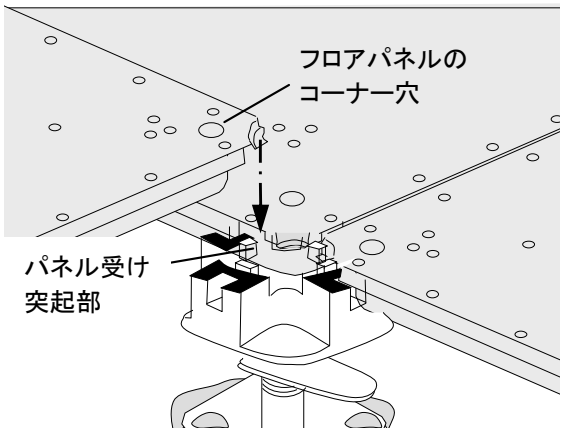
① フロアパネルの向きは矢印刻印を一定方向にしてください。
～通線口が形成され、女性のハイヒール等の落ち込みのおそれがあります

施工手順（つづき）

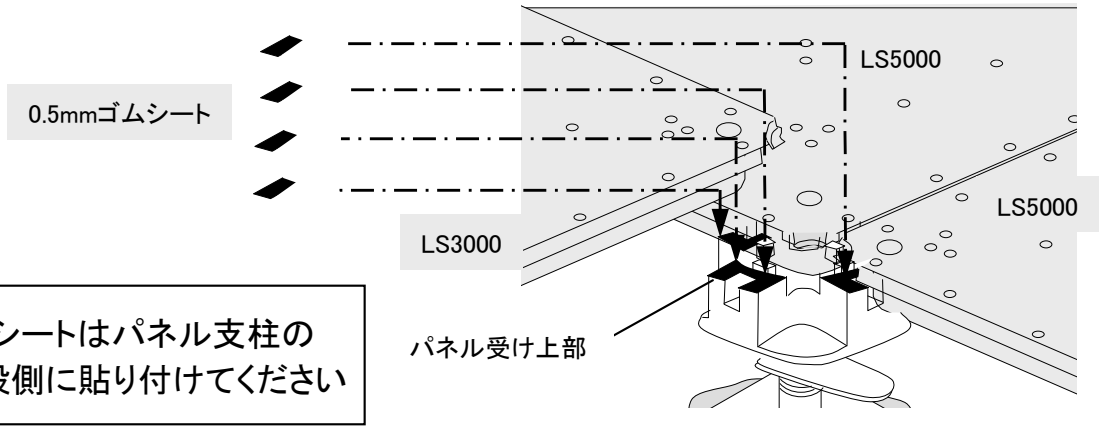
4 配置後、フロアパネルにがたつきがないかを確認します。
がたつきがあれば、パネル支柱の高さを再度調整して、がたつきをなくします。

がたつきが解消されない場合は、パネル支柱のがたつき・水平が出ていないなどの原因が考えられます。床面の異物・突起や不陸を確認し、必要に応じ補修してください。





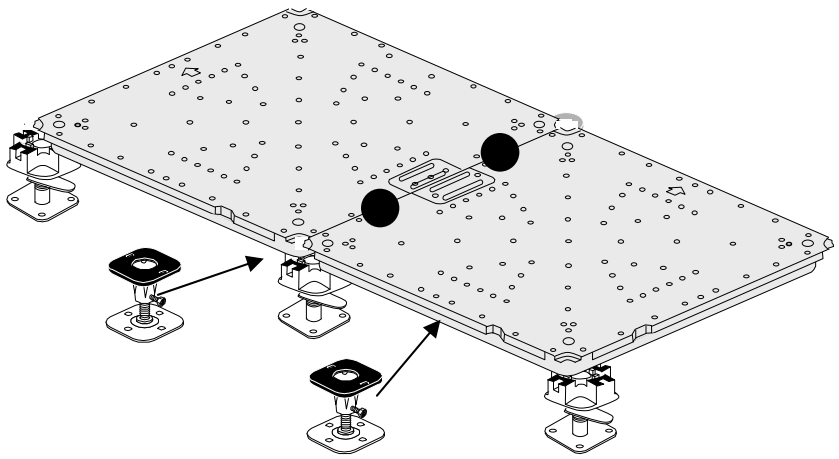
5 LS3000とLS5000を連続して施工する場合は厚さ0.5mmのゴムシートをパネル支柱の上部黒色面に貼り付けて段差を調整してください。



注意！

0.5mmゴムシートはパネル支柱の
LS3000敷設側に貼り付けてください

6 設備パネルを使用する場合は（●部）にボーダー支柱を入れて補強することをおすすめします。

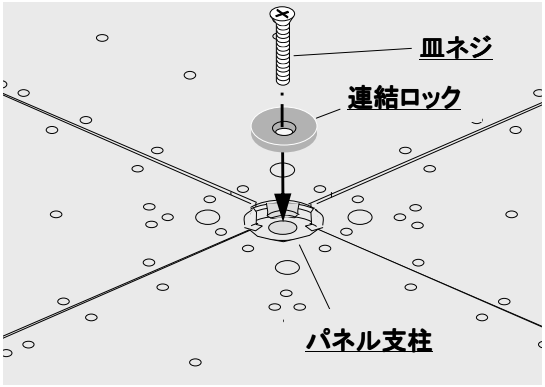


施工手順（つづき）

6 フロアパネルの固定（コーナーロック）

1 パネル支柱に同梱の連結ロックと皿ネジでフロアパネルのコーナー部より、
パネル支柱中心のネジ穴へ締め付け固定します。

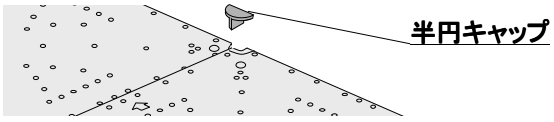
電動ドライバーを使用する場合は、締付トルク4.5N・m程度で締付けを行ってください。



① 連結ロックの固定は支柱の接着剤が固まってから行ってください。
～固まらないうちにロックを行うと支柱が動き、パネルの目地が不均一になったり、接着剤の剥離、ガタツキなどが発生する恐れがあります～

② インパクトドライバーなどの強い衝撃でネジを締めつけないでください。
～ネジ穴の破損・フロアパネルの変形が生じることがあります～

2 壁追い施工した場合のボーダー（壁際）部のフロアパネルコーナー部（半円穴）には、
半円キャップを載せて穴埋めをしてください。
半円キャップはタイルカーペット粘着テープで上から固定してください。

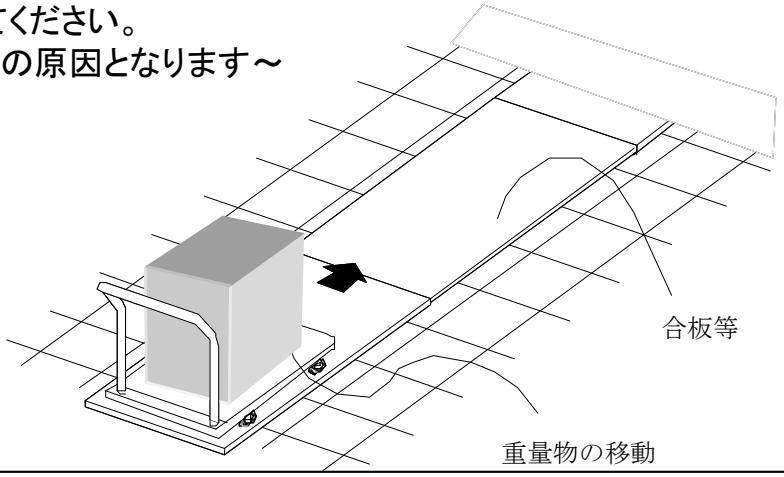


施工中及び施工後の機器等の搬入について

注意！

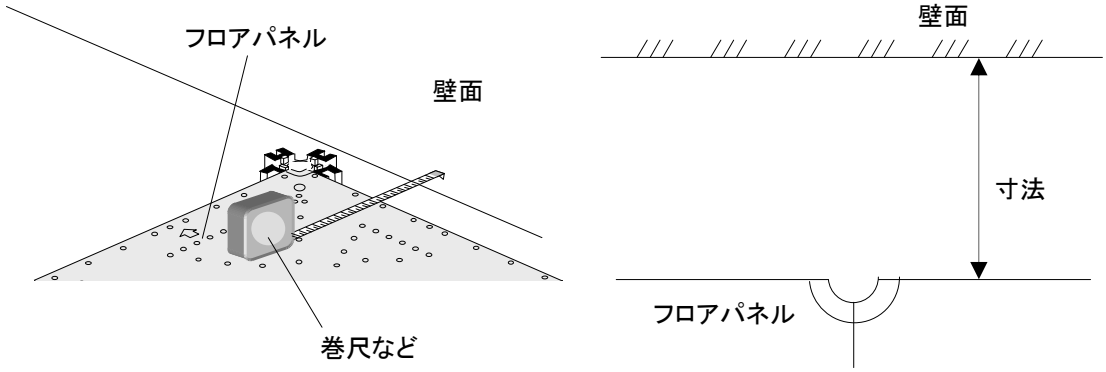
① 支柱養生期間（約1週間）以上過ぎていることを確認してください。

② 重量物を搬送する場合は、パネル上に合板など（厚さ16mm以上）
を敷いて行ってください。
～変形・破損の原因となります～

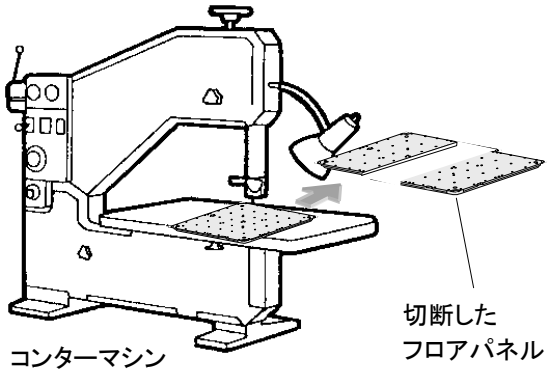


7 ボーダー部用フロアパネルの切断加工

❶ ボーダー（壁際）部の隙間を巻尺などで測定します。
（後にボーダー部材をカットし敷設する為の測寸です。結果はメモしてください。）



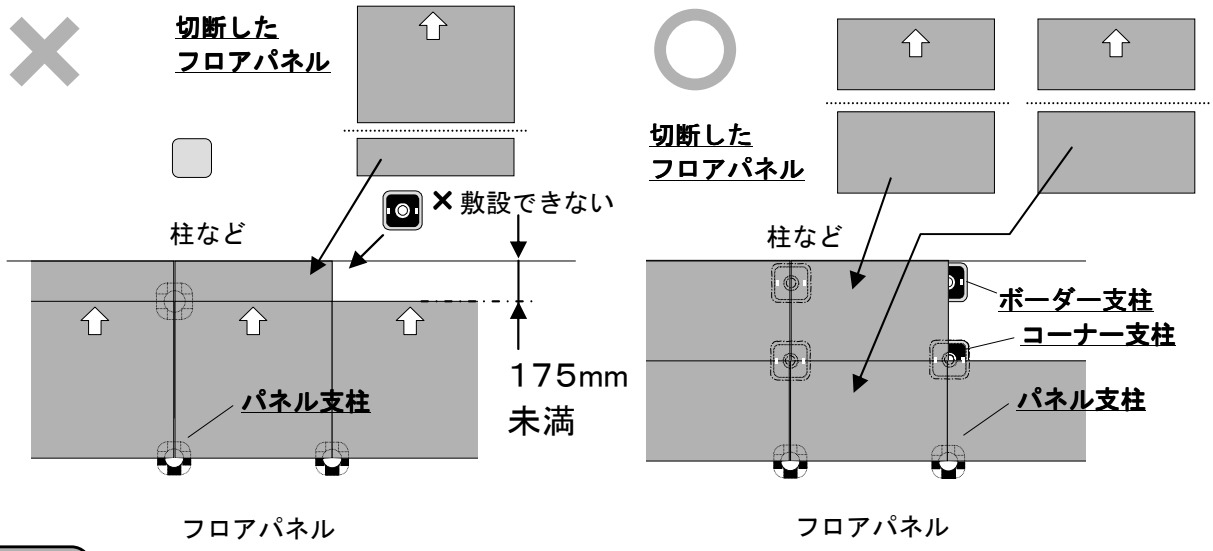
❷ 測寸結果に合わせフロアパネルをコンターマシンなどの切断機を用い、切断加工します



●クッション材を取り付けない場合　：測定した寸法A（フロア～背板内側間）より、やや小さめの寸法で切断する

●ボーダーカバーやクッション材を取り付ける場合　：測定した寸法B（フロア～壁面間）から、ボーダーカバーやクッション材分の寸法を差し引いた寸法で切断します。

柱周りなど切断するパネル寸法が175mmより小さくなりボーダー支柱が敷設できない場合は、下記のように処理します。

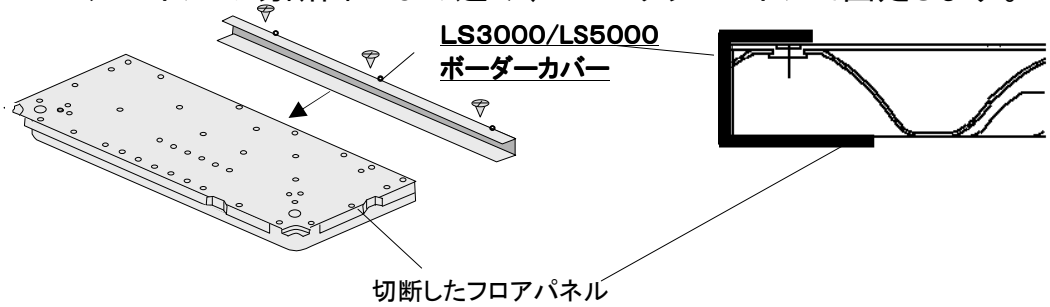


注意！

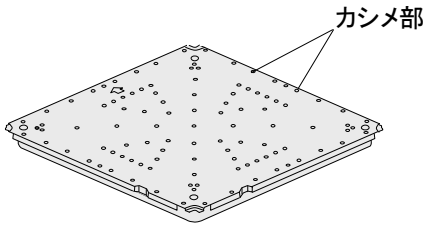
①切断加工をする場合は眼鏡などの保護具を着用してください。
②軍手など手袋の着用はしないでください。
③加工を施した部分は後処理を確実に行なってください。
～ケーブル損傷の原因となります～

8 ボーダー部フロアパネルの敷設

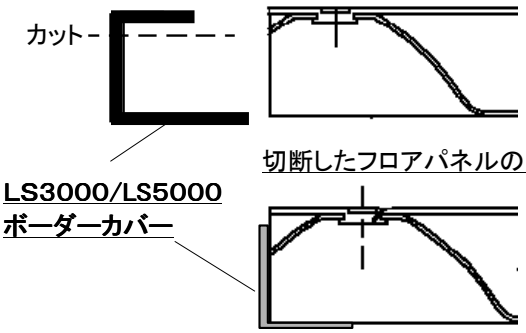
1 出入口付近など、補強が必要なところには、LS3000/LS5000ボーダーカバーを取り付けます。LS3000/LS5000ボーダーカバーは、ボーダー部用に切断加工したフロアパネルの切断面にはめ込み、M5皿タッピンネジで固定します。



※LS3000/LS5000ボーダーカバーの段差無と指定された場合は下図のようにカットしてお使いください。



LS3000通線パネル
LS5000通線パネル

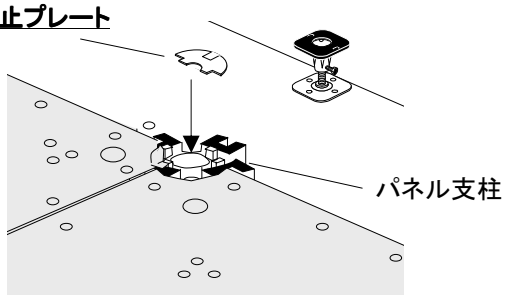


注意！

①パネルカットする際、できるだけカシメ部を避けてカットしてください。

2 ボーダーカット加工するフロアパネルを敷設する箇所のパネル支柱中心部のボーダー（壁際）部側に浮き防止プレートを取り付けます。

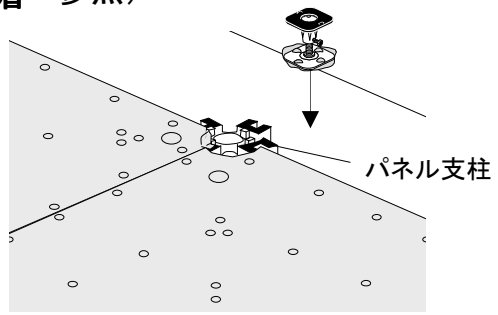
浮き防止プレート



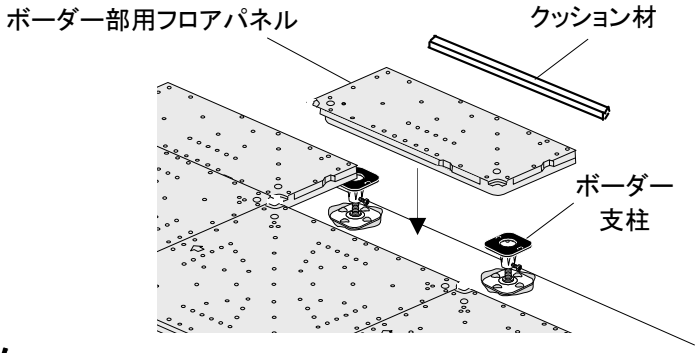
施工手順（つづき）

3 ボーダー支柱及びコーナー支柱の高さを調整し、ロックレバーにて固定します。
方法はパネル支柱と同様です。（ **3 支柱のレベル出し** 参照）

4 ボーダー支柱及びコーナー支柱に接着剤を塗布し、床面へ押し付け接着します。
方法はパネル支柱と同様です。（ **4 支柱の接着** 参照）



5 ボーダー部用フロアパネルをパネル支柱及びボーダー・コーナー支柱に敷設します。
カットパネルの壁際側へはクッション材を貼り付けてください。



9 壁面収納棚を設置する場合の施工

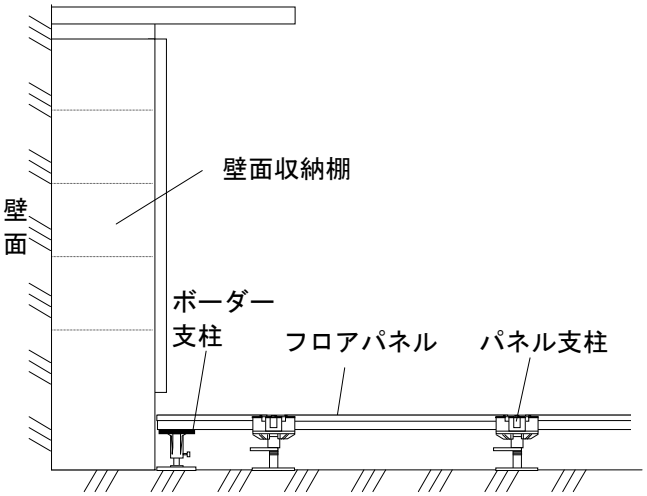
壁面収納棚を設置する場合、下記の点にご注意ください。

注意！

① 什器1脚あたり1000Nを越える荷重がかかる時は、合板などで補強してください。
② 壁面収納棚などの什器は建築壁に確実に固定し転倒防止処置を行ってください。

1 据付タイプの壁面収納棚の場合

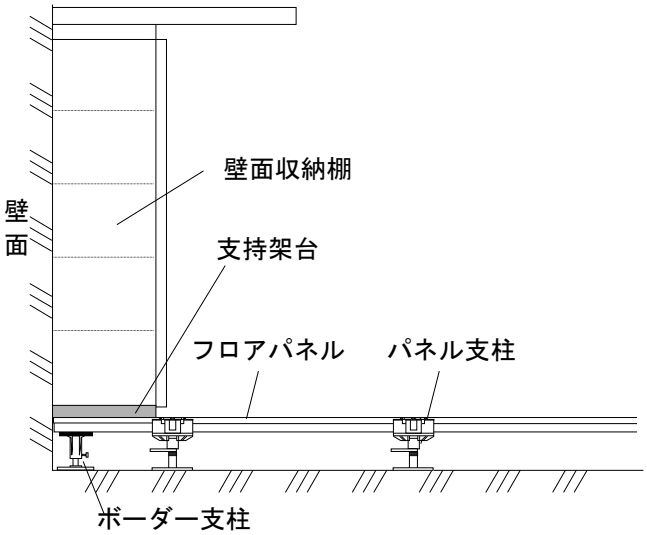
予め壁面収納棚を設置した後にフロア施工を行ってください。



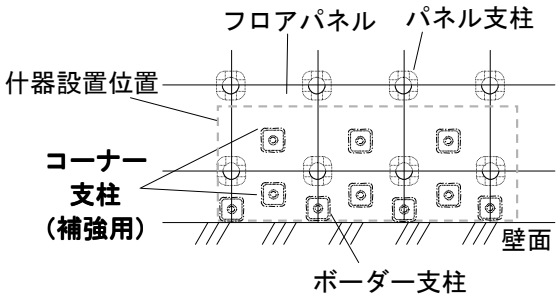
施工手順（つづき）

② 据置タイプの壁面収納棚の場合

壁面収納棚の下に支持架台を取り付けてください。（面荷重にする）



補強が必要です。
図のように什器下部分にはコーナー支柱で補強してください。



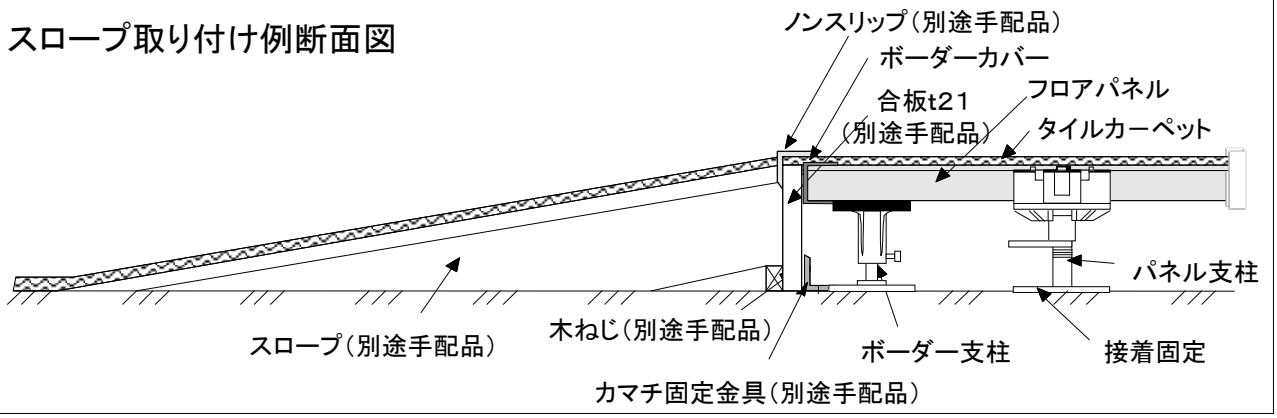
10 スロープ・かまちの施工例

施工図にしたがってスロープ・かまちを取り付けます。
下記はその施工の一例です。

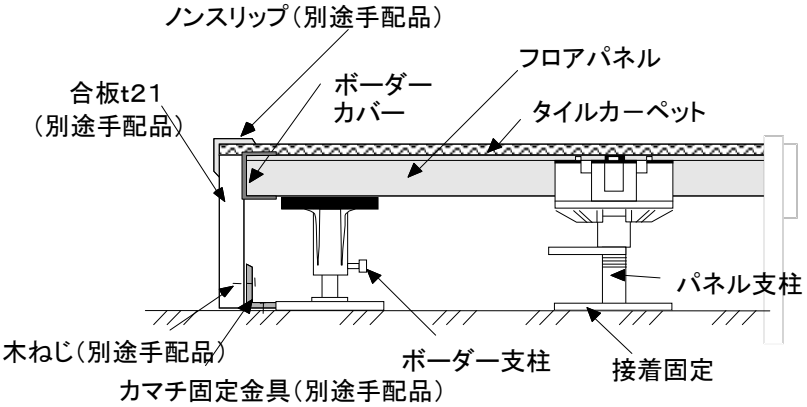
注意！

① スロープに隣接したカットパネルにはパネル中央にボーダー支柱を入れて補強してください。

スロープ取り付け例断面図



かまちの取り付け例断面図

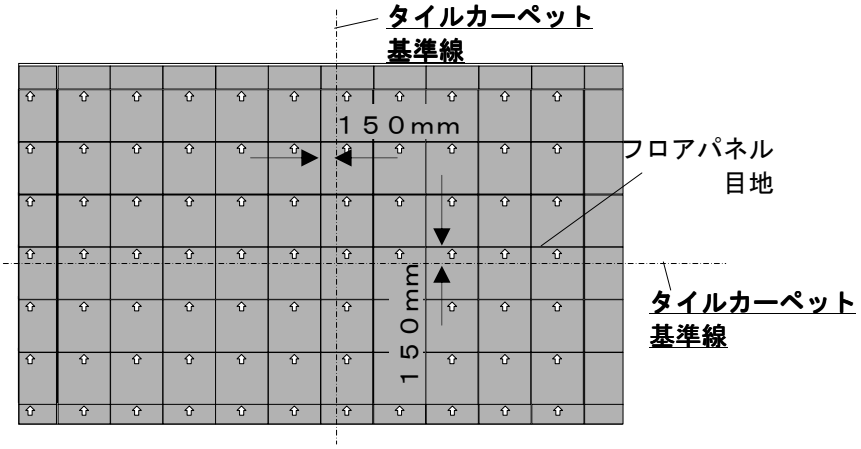


施工手順（つづき）

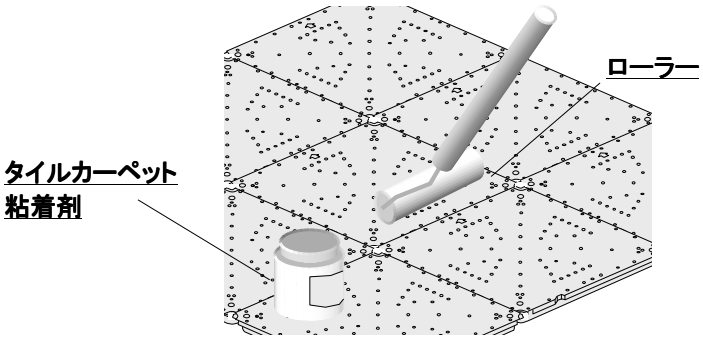
11 タイルカーペットの敷設

タイルカーペット粘着剤の塗布作業前に、フロア表面にチリやホコリがないか確認してください。あれば清掃してください。

1 タイルカーペット敷設基準線の墨出しを行います。タイルカーペットはずらし貼りとするため、基準線は部屋中央付近のフロアパネル目地より150mm程度ずらしてください。



2 敷設したフロアパネル表面全体にムラなくタイルカーペット粘着剤を市販のローラーにて塗布します。その際パネル目地部に粘着剤溜りが無いように注意してください。塗布後、粘着剤の色が白から透明に変わるまで十分に乾燥させます。



※塗布量の目安は
タイルカーペット粘着剤
のラベルをご参照ください。

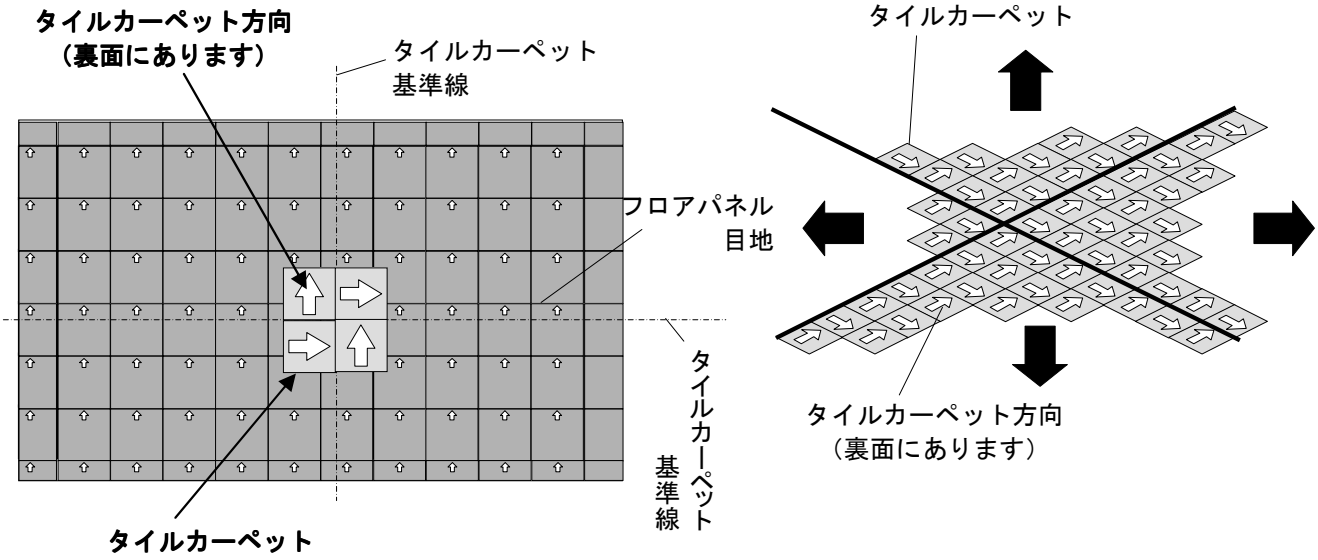
注意！

① タイルカーペット粘着剤は、製品に記載の使用上の注意をよくお読みの上、用法・用量を守ってお使いください。
～パネル開閉不良及びタイルカーペットズレの原因となります～

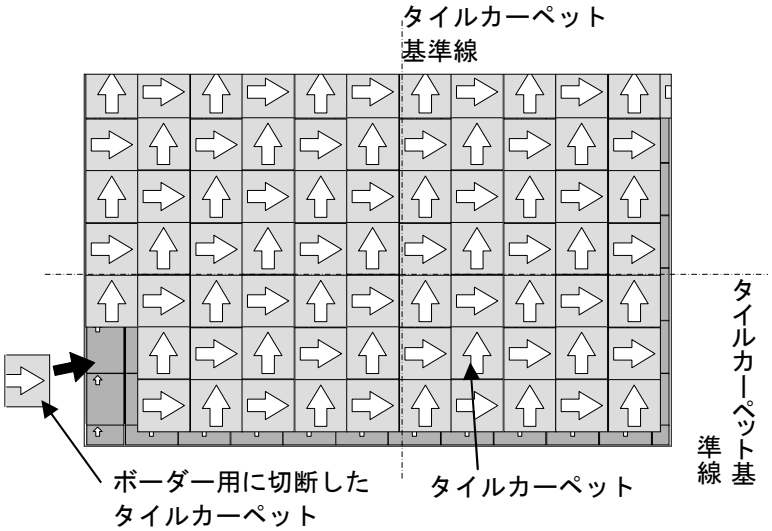
② タイルカーペット粘着剤の塗布作業は、換気のよい状態で行ってください。

施工手順（つづき）

③ タイルカーペット敷設基準線に沿ってタイルカーペットを敷設します。
次に斜め外側方向（ ➡ 方向）へ向かって順次敷設していきます。
タイルカーペットは市松貼りを原則としてください。
タイルカーペットの向きは裏面の矢印方向で確認してください。

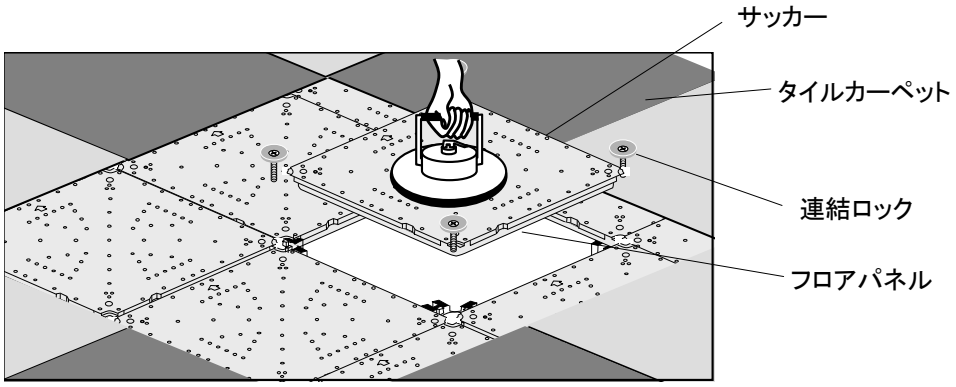


④ ボーダー（壁際）に敷設するタイルカーペットは、その位置の寸法に合わせカッターなどで切断し敷設します。
タイルカーペットは、隙間なく敷設してください。また、せりあがりにも注意してください。



12 配線工事

1 配線する箇所のタイルカーペット及びフロアパネルを取り外します。
タイルカーペットは手で剥がし、フロアパネルは、先に皿ネジ・連結ロックを外し、フロアパネルをサッカーにて吸引し、取り外します。



注意 !

① タイルカーペット・フロアパネルを元に戻す際、元の位置・元の方向が確認できるようにしておいてください
～タイルカーペットの織目違いやフロアパネルのガタツキの原因になります～

② カーペット裏面・フロアパネルには粘着材が塗布されていますので踏んだり汚したりしないでください
～タイルカーペットとの粘着力が弱くなります～

2 フロアパネル床下空間へ配線します。

ケーブル長は将来の配線替えに対応できるようにある程度の余長をとって配線してください。

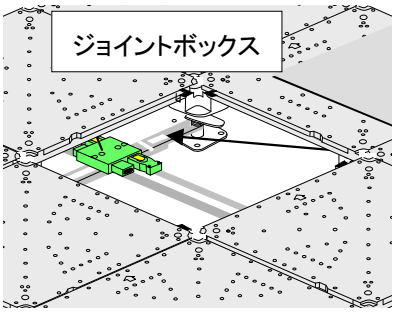
注意 !

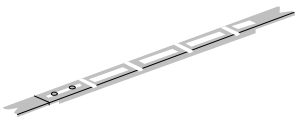
① 強電線と弱電線を混在させて施工しないでください
～電磁障害の原因となります～

3 フロアパネル・タイルカーペットをもとのとおりに取り付けます。

13 ハーネスジョイントボックスの取付

1 ジョイントボックス・モジュラジャック用取付台（支柱固定型）は支柱に突っ張るように固定し取り付けます。ジョイントボックスをビスにてジョイントボックス・モジュラジャック用取付台（支柱固定型）に固定します。
詳しくはジョイントボックス・モジュラジャック用取付台（支柱固定型）に同梱の説明書をごらんください。



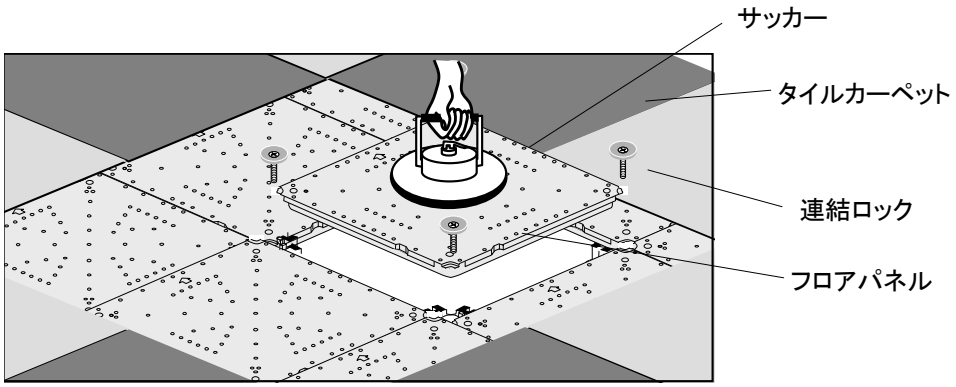


ジョイントボックス・
モジュラジャック用
取付台（支柱固定型）

14 ハーネス用OAタップのフロア上への取り出し

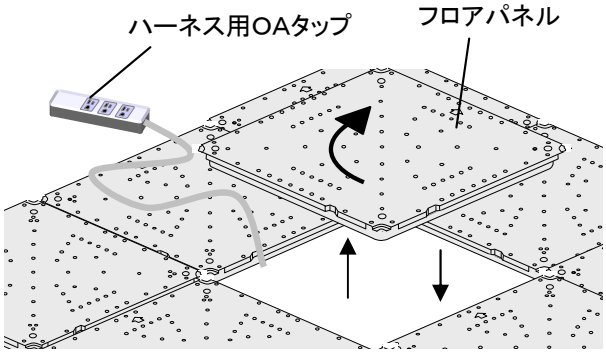
床下の当社製ハーネスジョイントボックスに接続したハーネス用OAタップの床上への取り出し方法は下記の通りです。

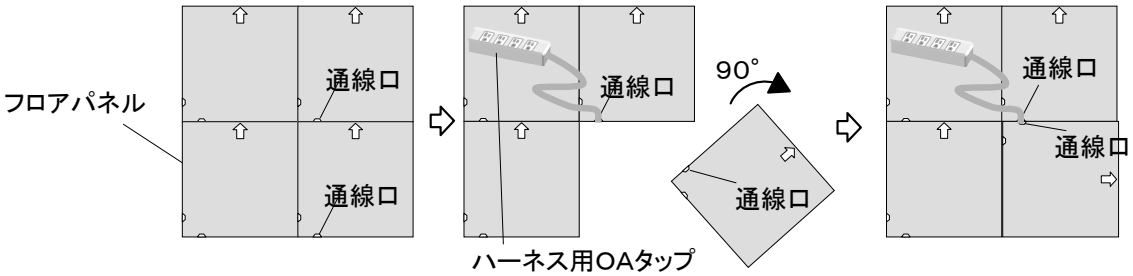
1 ハーネス用OAタップを取り出す箇所のタイルカーペット及びフロアパネルを取り外します。
タイルカーペットは手で剥がし、フロアパネルは、先に皿ネジ・連結ロックを外し、フロアパネルをサッカーにて吸引し、取り外します。



施工手順（つづき）

② 取り外したフロアパネルを回転させ、その通線口を隣接するフロアパネルの通線口に付き合わせるように向きを替え取付けることでハーネス用OAタップの通線口が形成されます。フロアパネルを取り付ける前にハーネス用OAタップのケーブルを通線口に挟み込むようにして、フロアパネルを敷設し、連結ロックを取り付けてください。

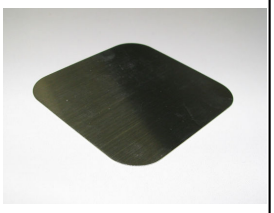




注意！

① 連結ロックは確実に締め付けてください。締め付けがゆるい場合、フロアパネルががたつき音が発生することがあります。

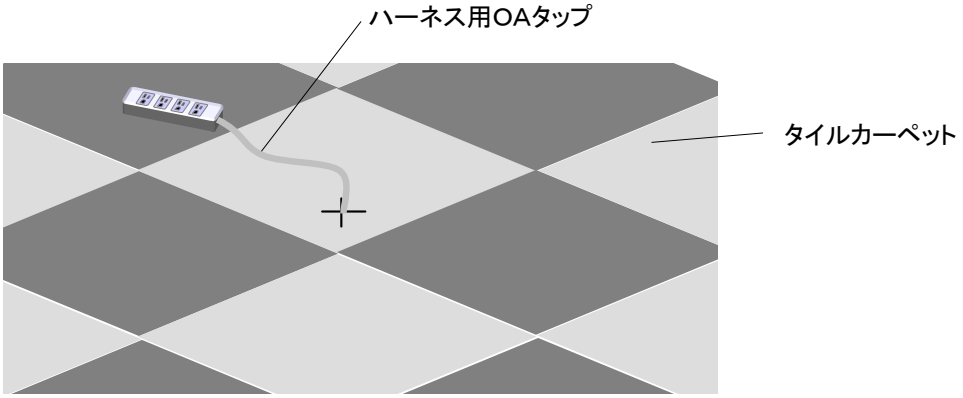
② 通線口が不要になった場合は、パネルを90° 回転させて通線口を半円型に戻してください。現場状況により、半円型に戻せない場合は、ワイヤリングフロア通線口塞ぎプレート（NE88420）で、塞いでください。
～ハイヒールが落込み、ケガをする原因となります～

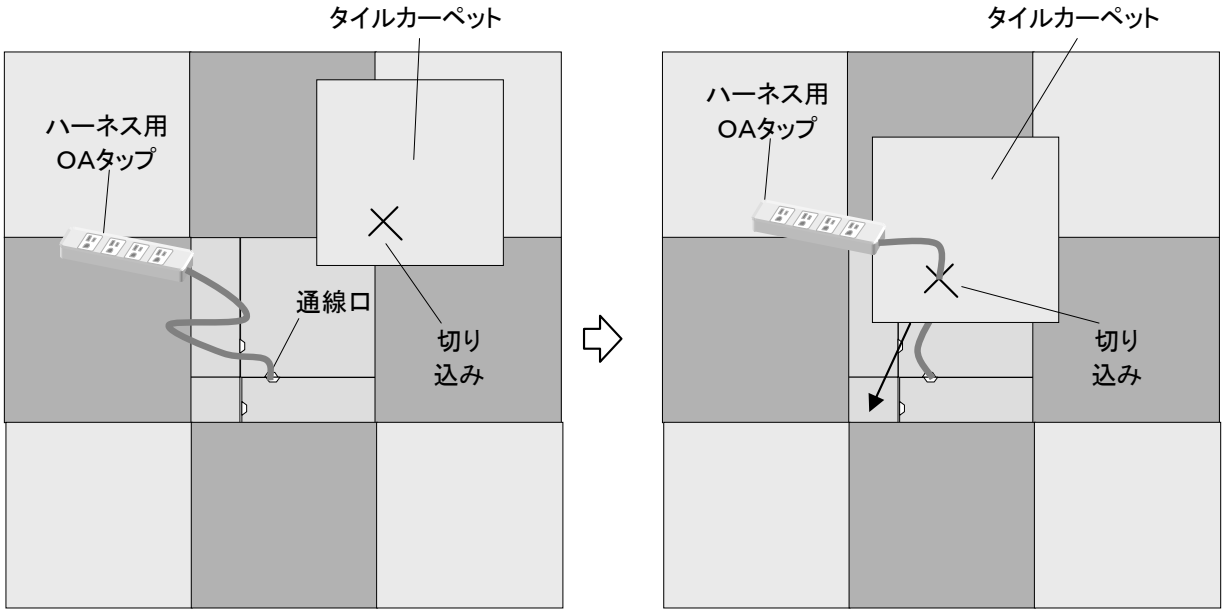


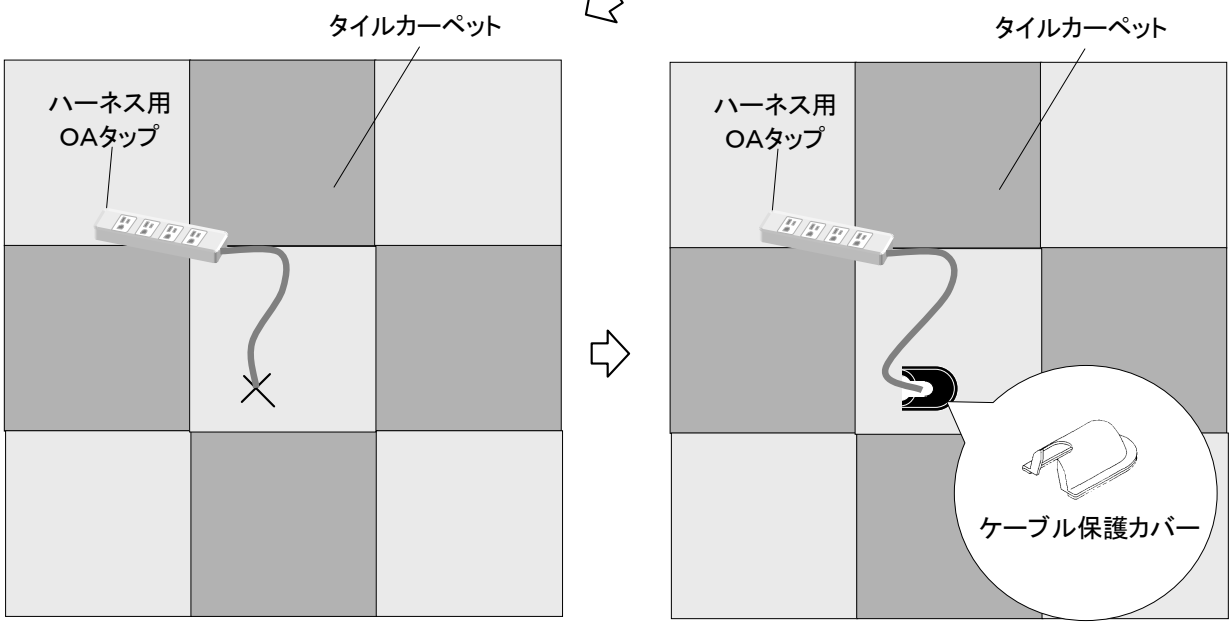
●ワイヤリングフロア通線口塞ぎプレート（NE88420）

施工手順（つづき）

③ ハーネス用OAタップを取り出す箇所のタイルカーペットにカッターで切り込みを入れます。その切り込みにハーネス用OAタップを通したあと、タイルカーペットを元の位置に敷設します。
最後にケーブル取り出し口部分にケーブル保護カバーをタイルカーペットに貼りつけます。



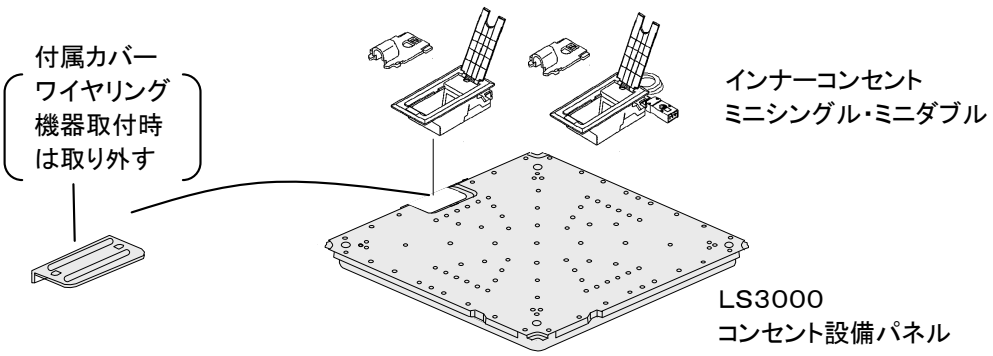




15 各種ワイヤリング機器の取付

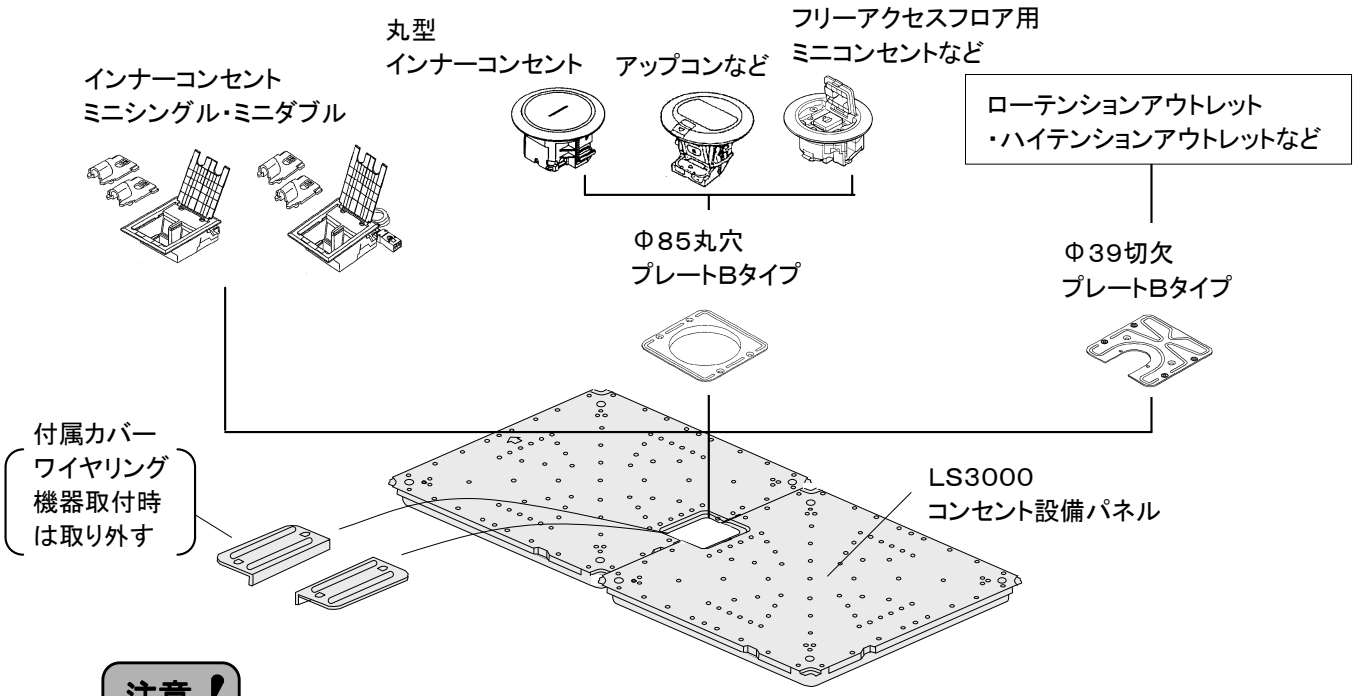
当社製の各種ワイヤリング機器が取り付けできます。下記以外の品種や取付条件などについては、当社フロアシステムカタログをご参照ください。また施工・取り扱いに関することについての詳細はワイヤリング機器の取扱説明書をご参照ください。

1 コンセント設備パネル1枚に無加工で下記ワイヤリング機器が取付できます。
・インナーコンセントミニシングルは付属のタッピンネジで取り付けます。



2 コンセント設備パネル2枚に無加工で下記ワイヤリング機器が取付できます。

- ●インナーコンセントミニダブルは付属のタッピンネジで取り付けます。
- ●丸型インナーコンセント・フリーアクセスフロア用ミニコンセントなどは、φ85丸穴プレートBタイプを同梱ネジで取り付けたあと、機器の固定はさみ込み金具で取り付けます。
- ●ローテンションアウトレット・ハイテンションアウトレットは、φ39切欠プレートBタイプを付属のネジで取り付けたあと、機器を付属のネジで取り付けます。



注意！

① ワイヤリング機器の取扱説明書を必ずお読みの上、正しく施工してください。
② コンセント設備パネルの付属カバーは、開口したままにしないでください。
③ ワイヤリング機器を取り付けたコンセント設備パネルの付属カバーは、大切に保管してください。レイアアウト変更の際に必要になります。
④ フロア床高さが低い場合は取り付けられる配線機器に制約がありますので必ず確認してください

施工自主検査基準書／成績書

■施工後に仕上り状態をチェックするのにご使用ください。(必要な場合はコピーしてお使いください)

ﾜｲﾔﾘﾝｸﾞﾌﾛｱ LS3000/LS5000 施工自主検査 基準書／成績書		検査日	平成　　年　　月　　日	
現場名		床面積		
施　主		検印	検印	担当
設　計				
建　築				
施　工		判 定	合 格・不合格	

項　　目	規　　格	方　　法	結 果	処　　置
支柱のｶﾞﾀﾂｷ	ｶﾞﾀﾂｷ無きこと事	目視、必要により踏付け		
ﾊﾟﾈﾙ間の隙間	＜2.0mm (ﾊﾟﾈﾙｺｰﾅｰ部分)	目視、必要によりｽｷﾏｹﾞｰｼﾞ		
ﾊﾟﾈﾙ間の通り	＜1.0mm (ﾊﾟﾈﾙｺｰﾅｰ部分)	目視、必要によりｽｷﾏｹﾞｰｼﾞ		
ﾊﾟﾈﾙ間の段差	＜1.5mm (ﾛｯｸﾈｼﾞ締付前) ＜0.5mm (ﾛｯｸﾈｼﾞ締付後)	目視、必要によりｽｷﾏｹﾞｰｼﾞ		
ﾊﾟﾈﾙのｶﾞﾀﾂｷ	ガタ音無き事	歩行してみる		
ﾊﾟﾈﾙの開閉	開閉容易な事	サッカーで開閉（1箇所/50㎡）		
ｶｯﾄﾊﾟﾈﾙ処理	ﾎﾞｰﾀﾞｰｶﾊﾞｰが適正に取付けてある	目視		
	ｶｯﾄ面に緩衝材が貼付けてある	目視		
ﾎﾞｰﾀﾞｰの浮き	＜0.5mm	目視、必要によりｽｷﾏｹﾞｰｼﾞ		
ｺｰﾅﾛｯｸﾈｼﾞ	全てｺｰﾅｰﾛｯｸﾈｼﾞが締められている事	目視、必要により触手		
仕上材のふくれ	ふくれ無き事	目視、必要によりｽｷﾏｹﾞｰｼﾞ		
仕上材の汚れ	目立つ汚れ無き事	目視		
仕上材のズレ	ずれなきこと	目視、タイルカーペットを蹴る		
框部の処理	ｽﾃｯﾌﾟ止め等の処理がされている	目視		
ｽﾛｰﾌﾟ部の処理	ﾊﾟﾈﾙとｽﾛｰﾌﾟ間の異常な段差無き事	目視		
その他(備考)				

お問い合わせ

■ 商品に関するお問い合わせは

パナソニック お客様ご相談センター　365日 受付9時～20時

電話 フリーダイヤル 0120-878-365 ※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

音声ガイダンスを短くするには、案内が聞こえたら電話機ボタンの
「87」と「600#」を押してください。
（番号を押しても案内が続く場合は、「米」ボタンを押してから操作してください。）

■上記番号がご利用いただけない場合
06-6907-1187

■FAX フリーダイヤル
0120-878-236

Help desk for foreign residents in Japan Tokyo (03)3256-5444 Osaka (06)6645-8787
Open:9:00 - 17:30 (closed on Saturday/Sundays/nationalholidays)
※上記の内容は、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

パナソニック株式会社　パワー機器ビジネスユニット
〒514-8555 三重県津市藤方 1668 番地
© Panasonic Corporation 2012

■ パナソニック OAフロアホームページアドレスのご案内

http://www2.panasonic.biz/es/densetsu/haisen/oa_floor/product/wire.html